

心の輪を広げる体験作文 小学生部門 佳作

「今度はいっしょに」

相模原市立小山小学校 六年 秦 小晴

はた こはる

私のお母さんは、障害者福祉施設で働いています。障害者の方たちの仕事や、出かける時の手伝いをしていると聞いています。よさこいや、ソーラン節をいっしょに練習したりもしているそうです。お出かけしたり、おどったりして楽しそうだなと思いましたが、私は実際に会ったり、話したりするのは少しこわい気がしていました。ある日、施設のお祭りがあると聞いて行ってみようとと思いました。まず、工作の体験コーナーでびっくり箱を作ることになりました。私のお姉ちゃんと同じくらいの年齢の人に教えてもらいながら作りました。障害者の方だったので、何を話していいか分からず、きんちようしました。だけど、分かりやすく優しく教えてもらいました。上手にできて、いっしょにびっくり箱で遊んでもらえたので、心配がなくなりました。

その後、ソーラン節をひろうつするステージを見ることにしました。はっぴを着て、はち巻きをした人たちが出ておどり始めました。元気で大きな声と、ニコニコした笑顔で力強くおどっていて、はく力がありました。少し前に、私も運動会で、ソーラン節をおどりました。その時はみんなで力を合わせて、楽しく一生けん命おどり、終わった後のはく手を聞いてつかれたけれど満足感でいっぱいでした。ステージでおどっていたみんなも、おどり終わって汗たくさんだけ満足のある顔をしていました。それを見て、障害があっても無くて

も気持ちは同じなんだなと感じました。最後に、いっしょにおどろ
うというコーナーでさそわれましたが、少し内気な私は、はずかし
くてできませんでした。また今度のお祭りも行こうと思っています。
今度は勇気を出していっしょにおどってみようと思います。